

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ヨシア		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 3月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 3日		～ 2025年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 12日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの気持ちに寄り添った支援： 集団活動を行う中で、必要に応じ個別時間もとり入れ、子どもの安心感、自信に繋がるような工夫を行っています。安心感、自信は、大人や友達との関係性を良好な方向へと導きます。ひとりひとりの個性を肯定的に大切にしています。	帰宅してすぐに行うフロントでのスキル練習の段階で子どもの様子を職員間でまめに共有し、ミーティングや活動での具体的な支援を臨機応変に変化させています。特に職員間のその日対応の統一を意識しています。	イレギュラーな子どもの動きを想定した対応時の役割分担を具体的に前もって決め練習をしていきます。
2	家族支援、学校、関係機関との連携： 学校支援を行い、行事の時など学校と連携し、子どもたちの自己肯定感を支えられるように、必要に応じて学習支援、不登校支援を行っています。又、事業所内相談支援を行い、保護者の困り感など聞き、アドバイスをしたり、ショートステイなどに繋がっています。	学校支援と不登校支援の職員の連携、子ども達の安心感の為の保護者のフォローを行っています。又、法人内の相談課やきょうだい児のクラスとも連携をとり、家庭ごとの支援を行っています。	親子が孤立しないような仲間づくりの促しを行っていきます。
3	研修体制による専門性： 部署ごと、年代ごとの研修、毎週行うグループSV、個別SVなどを通して職員の専門性の向上、連携を行い、職員も成長する機会が設けられています。	法人全体で数々の専門的研修が行なわれています。実践に落としこめるようなマインドも含め、先輩、上司から学びます。	インプットのみならず、アウトプットを意識し、最終的に子育て支援に活かせる工夫を考えていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもたちとの交流が少ない： 地域の公園などに活動に行った際に一緒に遊具で遊ぶことはありますが、積極的に園内で交流することはしていません。	地域の子どもたちとの交流が少ない： コロナなどの感染症への懸念があり、すすんでの地域交流には至らない傾向があります。	これからも地域の公園などでは、子ども同士で子どもらしく遊具で遊び合う姿を見守り、デイサービスに通う子供たちも地域で育つことを意識していきます。
2			
3			